

博士學位論文

内容の要旨
および
審査結果の要旨

乙第18号

2008

創価大学

本号は学位規則（昭和28年4月1日文部省令第9号）第8条の規程による公表を目的として、平成21年3月21日に本学において博士の学位を授与した者の論文内容の要旨および論文審査の結果の要旨を収録したものである。

学位番号に付した乙は、学位規則第4条2項（いわゆる論文博士）によるものである。

創価大学

氏名（本籍）	西浦 昭雄（東京都）
学位の種類	博士（経済学）
学位記番号	乙第18号
学位授与の日付	平成21年3月21日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当 創価大学大学院学則第17条第5項 創価大学学位規則第3条の3第4項該当
論文題目	南アフリカ経済・企業研究 —民主化前後期（1976－2006年）における変容—
論文審査機関	経済学研究科委員会
論文審査委員	主査 北 政巳 経済学研究科教授 委員 勘坂 純市 経済学研究科教授 委員 北川 勝彦 関西大学教授

【内容の要旨】

本論文A版242ページから構成され、目次は以下のとおりである。

目次

序章 南アフリカ企業研究の視角

1. なぜ南アフリカ企業に焦点をあてるのか
2. 先行研究の中での位置づけ
 - (1) アフリカ企業研究
 - (2) 南アフリカ経済・企業研究
3. 本書の特徴と分析枠組み
4. 本書の構成

第1章 南アフリカ経済の概要

1. 南アフリカの政治社会
2. 世界経済における南アフリカ
3. 南アフリカの経済構造
 - (1) マクロ経済循環
 - (2) 産業構造
 - (3) 産業集中化
4. 南アフリカにおける経済発展の課題

第2章 分析視角

1. 産業政策論
2. コーポレート・ガバナンス論
 - (1) 分析枠組み
 - (2) ファミリービジネス論との接合
3. ビジネスグループ研究
 - (1) ビジネスグループ諸概念の整理
 - (2) 国際比較研究
4. 直接投資論
 - (1) FDI の概念と理論
 - (2) 直接投資の決定要因に関する実証分析
 - (3) アフリカの投資に関する実証分析

第3章 民主化前後の社会情勢と産業政策の変容

1. 産業政策の変遷

- (1) 1920～80年代の産業政策
- (2) 産業政策の改革をめぐる論争（1990年代前半）
- (3) 新政権の産業政策
2. 衣料産業政策
 - (1) 民主化以前の衣料産業政策
 - (2) 民主化後の衣料産業政策
3. 鉄鋼産業政策
 - (1) 国営企業による産業育成
 - (2) 民営化と民主後の鉄鋼産業政策
4. 中小企業政策
 - (1) アパルトヘイト期の中小企業政策（1948～94年）
 - (2) 民主化後の中小企業政策
 - (3) 競争政策
5. ブラック・エコノミック・エンパワーメント（BEE）政策
 - (1) アパルトヘイトと黒人の経済進出
 - (2) 民主化後の政策転換
6. 小括

第4章 産業集中化とビジネスグループの変容

1. はじめに
2. ビジネスグループの現況と形成過程
 - (1) 六大ビジネスグループ
 - (2) 事例：AACグループの所有・経営支配構造
 - (3) 形成・多角化・再編メカニズム
3. 南ア・ビジネスグループの特徴
 - (1) 類型化の試み
 - (2) 所有と経営構造の比較
 - (3) グループの形成・多角化を促す動因の比較
 - (4) 政治・経済環境に関する比較
4. 民主化以前の財閥ガバナンス
 - (1) 分析手法
 - (2) 3財閥の分析
5. 民主化後の財閥改革
 - (1) キング・レポート
 - (2) 3財閥のガバナンス改革
6. 小括

第5章 社会情勢の変化と企業の対応

1. 企業社会の動向

- (1) 民主化以前の企業社会
- (2) 民主化後の企業社会
- (3) 民主化後の企業社会の動向
- (4) ムベキの政策方針と企業社会
- (5) 小括

2. 貿易自由化に対する衣料企業の戦略

- (1) 南アフリカ衣料産業の特徴
- (2) 貿易自由化への対応
- (3) 中国製衣料品との競争
- (4) 小括

3. 鉄鋼企業の輸出戦略

- (1) 南アフリカ鉄鋼業の特徴
- (2) 鉄鋼企業の経営戦略
- (3) 小括

4. BEE 政策の影響と企業

- (1) 中小企業の実態
- (2) BEE の進展度
- (3) 事例：ダーバン地域への浸透
- (4) 小括

第6章 アフリカへの直接投資行動

1. 南アフリカ企業の対外直接投資

- (1) 南ア FDI 規模
- (2) 対外直接投資の地域別分布
- (3) アフリカ諸国にとっての南アの FDI
- (4) 南ア直接投資の受入国側の決定要因

2. 対アフリカ投資行動の分析

- (1) 南ア上位 100 社のアフリカ進出状況
- (2) アフリカ進出形態の分析
- (3) 南ア企業による海外投資の決定要因
- (4) アフリカ投資に関する経営分析

3. 事例：南アフリカ企業のモザンビーク投資

- (1) モザンビーク経済と FDI
- (2) 南アによる対モザンビーク投資の現状
- (3) 南ア企業によるモザンビーク投資の収益性

4. 小括

終章：南アフリカ経済論への挑戦

1. 南アフリカ企業の変容と一貫性
2. 今後の研究課題

先ず西浦論文の最大の特徴は、アフリカ大陸でもっともダイナミックな経済活動を展開する南アフリカを企業視点から、民主化前後期を対象に総合的把握を試み、社会経済の変容を浮き彫りにしようとした点であり、その意味では先駆的著作と評価できることである。西浦論文では、南アフリカ経済の特徴を①産業の集中化、②民主化と貿易自由化による構造転換、③他のアフリカ諸国への企業進出ととらえる。また94年の総選挙を境に社会経済がいかに変化したかも関心事とされる。

西浦論文では、従来のアフリカ企業研究が①開発論、②産業集積論、③経営史、④計量経済学から展開されていたことを整理し自らの研究視座を南アフリカ企業論として総合的に理解しようとする立場をとる。その上で彼自身が5つの枠組み、①政府、株主、取引先、住民等の利害関係者関連、②民主化前後の時代区分、③日本の企業研究からの成果、④南アフリカと周辺諸国との関連、⑤企業活動家自身の声を入れての総合的考察を試みる。350件をこす南アフリカ企業家インタビューを収録した。また各章の構成は、第1章は南アフリカ経済構造の特徴の解明、第2章では南アフリカ経済の特徴ともいえる産業集中化と政治的民主化・貿易自由化による変容過程、第3章は南アフリカ経済の影響を与える外圧を究明、第4章はグループ形成・再編過程をコーポレート・ガバナンス論から考察、第5章では3章での外圧を受けての国内企業の対応を吟味する。また第6章では南アフリカの他のアフリカ諸国への投資活動を計量経済学と経営分析の双方の手法を用いる。特に4－6章について、特に力を入れて究明しようと試みている。

【論文審査の要旨及び最終試験の結果】

西浦氏からの請求論文の著作審査にあたり、先ず西浦氏の大学院以降の幅広い研究活動と研究活動を確認した。とくに大学院修士時代にケニア・ナイロビ大学への交換留学、博士課程での南アフリカ・ウィッツウォータランド大学での研究留学があり、アフリカ専門研究者としての実績がある。また日本アフリカ学会、日本国際経済学会、経営史学会、社会経済史学会等の学会に入り幅広く活動、さらに国立民族博物館、JICA、アジア経済研究所にも関与している、さらに文部科学省研究費補助金や本学文系研究補助金を受け、数多くの論文（日本語・英語）で公表している点を確認した。

先ず北から全体構想に関する質問をおこない、ついで従来の諸先学との違いについて質問した。特に南アフリカ社会経済の把握を英資本主義や英帝国主義時代から分析すべきではないかとの点について、西浦氏はむしろ伝統的な旧史観から脱却し、南アフリカまた同国企業から周辺諸国を観る立場から、いわば「経済構造の横断的分析」を主張された。この点では御本人の学部・大学院時代の問題関心も産業分析にあったこともあり、また膨大な資料と情報に取り組んでの成果は認められる。また今後の研究進展に通いても明白な問題意識も確認できた。

次いで勘坂委員から、使用された用語の確認と論文中の資料データについての質問があり、西浦氏の論文の意図と方向性が明白化された。

最後にアフリカ経済史研究の権威である北川委員から、各章における疑問点をめぐり数多くの質問が

行われ、本論文で西浦氏が意図・展開された研究内容を討論的に検証した。原著の各章にわたる主張点について詳しい吟味が行われ、現在の南アフリカ企業論では最も深い学識をもつ西浦氏の立場から、丁寧に自らの努力と学説理解をもとに返答された。

いくつかの点で表現・表記法への疑念も指摘されたが、いずれも原著の意義を失うものではないことが確認された。また審査員の一致した西浦論文の弱点は歴史的全体像の理解方法であるが、西浦氏の精力的な研究活動により「南アフリカ社会の産業・企業の百科全書」ともいえる著作は、それを清算しても高く評価され力作とした。また本論文をもとに近く『南アフリカ経済論—企業研究からの視座—』（日本評論社）で上梓されるとのことであった。

また語学試験については、著者が英語で発表された論文を対象として合格とした。膨大な文献と多くのインタビューをされた点をもって、語学能力確認として評価した。

1時間にわたる以上の結果、西浦氏の学位申請の著作に対して高い評価で同意し、合格とする事で3人の委員は合意した。